

諸君... 諸君... 諸君...

昭和五年二月二十八日 東京府千代田区...

諸君... 諸君...

諸君... 諸君... 諸君...

諸君... 諸君...

諸君... 諸君... 諸君...

諸君...

檄

千代田区聯合會(種島横川。三)

親愛なる従業員諸君に告ぐ

会社は景気の良し時はたんまりもラけて置きながら不景気だから利益が狭いからと云つて俺達兄弟を首にするとかいふのだ。諸君会社の勝手になつて来まるが。この不景気に首になつたら一体どうなるんだ。労働者は食はせて死ぬと云ふのか。右労働者でも生きたる権利はある筈だ。そうぞいそれだから俺達は首切に反対するのだ。親和會の腰板幹部の望みの綱はきれた。会社とくるとなつておる奴等に何か出来るか。而も会社は巧妙にやつて来たぞ。長郷晴子はどうか最初九人で後から九人だ。俺の会社でもこの午で第一首切り第二首切り第三に来るのは賃金値下げだ。

諸君第一首切りを機會として小石川の同志諸君は臨休中を抱えず工場に押しかけ従業員大會を開いて直ちに争議團本部を設けて来る四日の中出勤は断然欠勤する事を申合せ解雇絶村及村の要求を押しつけたのだ。

諸君今俺達の兄弟數十名は死刑の宣告を言(渡された)のだ。而も第二の首切の切逆すると共に賃金値下げは確実と思ふぞ。諸君はよの興の午でいやが上俺